

横浜市市民活動支援センター自主事業部門

(補助事業：平成27年度から平成29年度の3か年事業)

事業名：「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」事業

平成27年度 横浜市市民活動支援センター事業報告書

平成28年度 横浜市市民活動支援センター事業計画書

実施団体：横浜コミュニティカフェネットワーク



## 事業報告書

事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
テーマ	中間支援組織の機能の充実
事業運営	<p><b>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携</b> (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p>
	<p><b>1. 横浜市市民活動支援センター(市民セクターよこはま)</b>            ①事例検討会への参加を通じて、市域のNPOやコミュニティカフェの動きについて情報共有を行うことができた。            ②コミュニティカフェフォーラム開催にあたっての情報発信・広報PRや、当日の運営協力も行っていただいた。            ③各区区民活動支援センター職員向けのネットワーク会議で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について事業説明を行った。</p> <p><b>2. アクションポート横浜・ETIC</b>            ETICが行う横浜市市民活動支援センター自主事業のチラシを、公開フォーラムで配布するなどの連携と、インターン事業への情報提供を行った。アクションポート横浜とは、具体的な連携事業に発展はしなかったが、意見交換などを通じて、相互の事業について理解・共有をすすめることができた。</p>
	<p><b>予算</b>(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。)</p> <p>費用は適正に執行できた。年度当初から事業進捗を定期的に確認し、計画と得られた成果に基づいて取組みを進めたことで、効果的な経費執行ができた。</p> <p>また、本事業は、市外からも高い関心が寄せられており、初年度成果を広く共有するための中間報告は、WEB掲載の手法をとることで費用を抑えつつ、広域に発信することができた。</p>
事業計画	<p><b>事業内容</b>(事業内容は市民公益活動のニーズを捉えたものか。)</p>
	<p><b>1. 訪問調査(6か所)</b>            採択時の付帯意見を受けて、2年目に予定していた訪問調査を前倒しに実施し、年度当初には3か所予定していたものを、追加して6か所を訪問した。</p> <p><b>2. 事例検討会(5回、16団体)</b>            年度当初4回を予定していた事例検討会だが、予定を1回増やし、定義や持つべき力量などの視点を更に深めて整理した。</p> <p><b>3. カフェ支援会議(2団体(+2団体)、計7回)</b>            採択時の付帯意見を受けて、年度当初には3団体を対象としたが、伴走支援の受入れ調整が時期的にあわずに、対象を2団体にしぼった。</p> <p><b>4. 公開フォーラム開催(1回、一般参加62名、関係者19名)</b>            1～3で把握された視点や現状について広く報告共有した。</p> <p><b>5. 報告書の素材整理(視点と先進事例)</b> 成果をまとめ、中間報告をWEBに掲載した。</p>

この書類は、横浜市市民協働条例第7条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなればなりません。

## 事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）

### 1. カフェ訪問調査（6月～1月、6か所）

自治会・町内会が行っているカフェ等を中心に、コミュニティカフェが果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査した。

（訪問先：5/26 ほっこり、7/9 ふれあいわかば、9/24 地域サロンすみれ中町、11/12 いのちの木、12/16 こまちカフェ、1/6 ほっとさこんやま）

### 2. 事例検討会（8月～12月、5回）

のべ71名が参加。事例から、カフェで行われている中間支援機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理した。

①7月20日(日)13時半～16時半 ふらっとステーション・ドリーム（戸塚区）

②8月30日(日)13時半～16時半 港南台タウンカフェ（港南区）

③9月13日(日)13時半～16時半 大倉山おへそ（港北区）

④10月18日(日)13時半～16時半 スペースナナ（都筑区）

⑤11月29日(日)13時半～16時半 シェアリーカフェ（都筑区）

### 3. カフェ支援会議（対象2団体+支援カフェ2団体、9月～3月、計7回）

中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェの関係者が支援者となり伴走支援を行った。

■大倉山おへそ（港北区）

① 9月3日(木)午後 ②12月22日(火)午後 ③3月4日(金)午後

■シェアリーカフェ（都筑区）

① 9月10日(火)午後 ②10月28日(水)午後 ③12月2日(水)午後 ④1月12日(火)午後

### 4. 公開フォーラム開催（2月14日(日)午後シェアリーカフェにて、80名参加）

1～3で把握された視点や現状について広く報告共有した。

### 5. 報告書の素材整理（視点と先進事例）

成果をまとめ、中間報告をWEB掲載。関係者用に印刷。

## 期待される効果（市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。）

○コミュニティカフェの定義や中間支援の役割、定義についてある程度の共通理解を持ち、議論を深めることができた。

○事例検討会においては多くの実践者・研究者が集まった。議論が深まり、追加開催を行うほどであった。

○コミュニティカフェ実践者が集まり中間支援についての情報共有をする検討会の中で、各コミュニティカフェが他事例から学び新しい取り組みを取り入れる動きがあった。その結果カフェへの市民参加の機会が新たに創出されるなど波及効果が見えてきた。

○コミュニティカフェ実践者が今回の事業を通して、中間支援機能を知らずのうちに担っていたケースが多かったことが分かり、今後更なる意識改革、意識向上につながると思われた。

○個別支援を通して、参加団体のコアメンバーやスタッフの意識向上が見られ、具体的な地域へのアクションを通じて関係性が生まれたり、組織内の課題が浮き彫りになり、来年度の体制変更に向けて協議が進みだすなど課題解決への取り組みに至る効果が見られた。また、フォーラムでの取り組み発表等を通して広く効果や意義を伝えることができた。

○フォーラムにおいては、一般市民・行政関係者・NPO関係者等に向けて、コミュニティカフェの中間支援についての関心を更に高めることができた。

自己評価	<p>○住民組織中心で運営する地縁系のコミュニティカフェの調査から、地域内で丁寧な課題解決の取り組みや、関係づくり、そして安定した事業運営を行っていることがわかった。一方で、テーマやエリアを超えた広がりを持とうという意識までは現時点での確認はできなかった。</p> <p>○コミュニティカフェが果たす役割について、地域の団体や行政などからは、成果や意義は感じているが、なかなか理解が深まらないことも多く、今後の地域社会での位置付けや関係を考える上で、「価値をどう可視化するか」の重要性が、事例検討会などを通して確認できた。また来年度以降につながる取り組みであるとの確認がなされた。</p> <p>○フォーラムでは定員を超える応募があり、コミュニティカフェやコミュニティカフェが担う中間支援機能についての関心の高まりを感じられた。参加者の声からはコミュニティカフェの実践者や検討者でも、中間支援志向を持つ団体が多いことがわかった。当日は市民局以外にも多くの部局や区役所からの参加もあった。また、区版市民活動支援センターネットワーク会議で、区民活動支援センターの担当職員などと共有できたことは、今後のコミュニティカフェが果たす中間支援機能について、行政との役割分担や連携などを模索していく必要性を共有でき、来年度以降へつながると感じられた。</p> <p>○団体連携では、調査やフォーラムなどを通じて、市内のコミュニティカフェ実践者との関係づくりが強化されたり、市民活動支援センター運営団体である市民セクターよこはまとは事例検討会の参加や、フォーラムでの運営協力など・事例検討会や行政職員等フォーラムの告知、区民活動支援センター職員向け研修での事例紹介など横浜市市民局との役割分担を協議しながら協働に取り組むことができた。</p>
------	---

(第 10 号様式)

## 事業収支決算書

【収入】

(単位：円)

項 目	金 額	説 明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担（会費・寄附等）	170,175	会費・寄付金等より充当
参加費・資料代等	62,000	公開フォーラム参加費 1,000 円×61 名 資料代 1,000 円
合 計	2,232,175	

【支出】

項 目	金 額	説 明（使途、積算根拠等）
カフェ訪問調査	198,656	調査費 3,000 円×6 団体 交通費 18,156 円 人件費 162,500 円
事例研究会	478,000	開催費 30,000 円×2 回 開催費 15,000 円×3 回 交通費 108,000 円 人件費 265,000 円
支援会議	761,648	支援団体受入謝金 10,000 円×7 回 会場費 5,000 円×7 回 交通費 16,648 円 人件費 545,000 円
公開フォーラム	281,816	講師(1 名)・報告者(5 名)謝金 80,000 円 会場費・お茶代 55,200 円 広報・印刷費 69,116 円 運営人件費 67,500 円
報告書	378,000	原稿執筆謝金 170,000 円 編集人件費 198,000 円
事務経費	134,055	打合せ会場費・事務用品・印刷費 共同オフィス賃借料 46,000 円
合 計	2,232,175	

\* 補助金交付の対象である事業の収支決算を記入してください。

この書類は、横浜市市民協働条例第 7 条第 4 項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなければなりません。

20160214 コミュニティカフェフォーラム（YCCN）

＜カフェ型中間支援機能 コミュニティカフェ訪問調査先＞

名称	ほっこり
運営	湘南八景自治会
所在地	横浜市金沢区東朝比奈 2-2-32
開設・営業	2012 年 6 月開設（営業日：火、水、木、金、土 10:00～16:00）
高齢化率 30%の 2100 世帯の住宅地にある自治会が、マンション1F 空き店舗を購入して開設したコミュニティサロン。地域の見守り活動の受付機能を有していて、住民がふらりと立ち寄って相談できる。金沢区の「つながりステーション」。	

名称	地域カフェすみれ中町
運営	三ツ沢地区民生委員児童委員協議会
所在地	三ツ沢中町町内会館（横浜市神奈川区三ツ沢中町 4-22）
開設・営業	2012 年開始（営業日：第4木曜 10:00～12:00）
連合町内会と連携して、地域各地でひらかれている地域サロンのひとつ。月 1 回午前 2 時間の開催。民生委員児童委員を中心に開始、地域ケアプラザや社協との連携を持ちながら、住民も参加した運営を行っている。お茶とお菓子のみの提供。	

名称	ふれあいわかば
運営	NPO 法人若葉台
所在地	若葉台団地ショッピングタウンわかば内（横浜市旭区若葉台 3-5-2）
開設・営業	2010 年 10 月開設（営業日：火～金 10:00～16:00）
高齢化が進む 6,000 戸の大規模団地。高齢、障がい、子育てなどの支援活動を行うために設立された NPO 法人が、ショッピングセンター内にひらいた地域交流拠点。お茶のみの提供で利用は無料。地区ボラセンの機能も有しており、高齢者買物支援サービスを行っている。	

名称	ほっとさこんやま
運営	NPO 法人オールさこんやま
所在地	左近山団地左近山ショッピングセンター内（横浜市旭区左近山 1-31-101）
開設・営業	2014 年 4 月開始（営業日：月～土 9:00～18:00）
高齢化率 40%の大規模団地内の商店街に開設された地域福祉交流拠点。運営する NPO 法人は、連合町内会、社協、民生委員、老人会、住宅管理組合、ケアプラザ、医療法人、商店会が集まって立ち上げた。社協の生活支援システムの受付機能を有している。	

名称	いのちの木
運営	NPO 法人五つのパン
所在地	横浜市都筑区仲町台1丁目32-21
開設・営業	2011 年開設(営業日:月～金 10:30～17:00)
地域活動支援センターをコミュニティカフェとして運営する NPO が、呼び寄せ高齢者や発達障がい者の社会的つながりづくりの場として開設したミシンの音のするカフェ。弱さを絆に変えていく各種取組みのコーディネイトの視点について主にヒアリング。	

名称	こまちカフェ
運営	NPO 法人こまちふらす
所在地	横浜市戸塚区戸塚町 145-6-奈良ビル2F
開設・営業	2014 年 5 月開設(営業日:月～土 10:00～17:00)
子育て中の母親が地域で働ける場、親子をはじめ、多様なまちの人が集える“ひろばカフェ“というコンセプト。地域の子育て情報を子育て当事者の目線で発信するNPOが運営する。地域連携と人材育成について主にヒアリング。	



## 1 コミュニティカフェの定義について

### ＜本事業を検討するに際してのコミュニティカフェの定義＞

○次の3つの要件を全て満たしている場

「目的なく誰でも利用できる」

「飲食や物販、スペース貸など金銭のやりとりが可能である」

「地域と社会につながる機会が用意されている」

## 2 カフェ型中間支援機能について

＜特徴＞

○ゆるいこと、決まっていないこと、余白があることが重要（ゆるやかな場）

○カフェは、窓口なしに情報提供・相談が一緒にできる。だからこそ、気の置けない会話や不満を通して、多様な情報等が持ち込まれ、安らぎを求める人がいる（窓口のない情報提供・相談）

○うまくつなぐ人がいたり、何かの弾みで話が盛り上がったり、そうした対話や提案などで、これまで社会に無かったもの、新しい価値のあるものが生まれる可能性がある（場の力）

○潜在的な課題のうちに解決に向かって動く可能性（予防の役割）

○解決しなくてもよい場（寄り添い、居場所）

### ＜「カフェ型中間支援機能」のとらえ直し＞

次の4つに整理

① きっかけ

② 受け止め

③ おせっかい

④ つなぐ

（1）既にカフェで行われている社会的機能や事例

#### 【きっかけ】

- ・何か起きてからでなく、予防できるのがカフェのいいところ（コーディネート）
- ・期待感（何か話したい、話を聞いてくれる、ヒントがある）がある。（相談）
- ・無自覚なおしゃべりから、潜在的な困りごとをキャッチできる（相談）
- ・いま疑問に思う事、語り合いことを持ち込める、やりたいことを地域でできる場所
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重。
- ・コミュニティカフェにいと、成長・自立が早い。→障がい者・若者の中間就労
- ・地域住民（高齢者）に生きがい・やりがいを提供（新たな出番づくり）
- ・新たな参加・対話の場づくり。

- ・「まちのことを考える場」づくり→地域のステークホルダーが集い語る機会をつくる
- ・地域の問題だけでなく、広く社会の問題も、政治性のあるテーマも含め対象にできる

#### [受け止め]

- ・期待感（何か話したい、話を聞いてくれる、ヒントがある）がある（相談）
- ・「自分探し」的なおしゃべり（相談）
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重
- ・いま疑問に思う事、語り合いことを持ち込める、やりたいことを地域でできる場所

#### <関連>

支援センターでは事前予約相談は 1 割。新人職員（窓口対応担当が多い）が相談対応件数が一番多い。潜在的課題で曖昧なものは、支援センター相談では受け止めきれない。

#### [おせっかい]

- ・何か起きてからでなく、予防できるのがカフェのよいところ（コーディネート）
- ・相談機能を住民から求められている（情報提供や仲介を行うことがある）
- ・小さな困りごとが相談ニーズになる前、無自覚なうちに解決する（予防）
- ・区域の子育て支援情報の収集と提供（情報収集提供）

#### [つなぐ]

- ・区域の子育て支援情報の収集と提供（情報収集提供）
- ・情報共有の場をつくり、1 団体で無理なものをネットワークで対応（役所・自治会も参加）
- ・若者と高齢者が同テーブルで交流できることは貴重

#### <事例>

- ・おしゃべりの場が小さな困りごとの解決の場になる→ふらっとステーションドリームの事例
- ・子ども食堂や、就職相談の機会づくり、認知症カフェ開催など地域に役立つ機能の立ち上げ→スペースナナ、ふらっとステーションとつか、大倉山ミエルの事例
- ・当事者活動の相互支援・共助支援活動の立ち上げ支援→さくら茶屋の事例
- ・ゆるやかで大きな地域イベントを展開させ、連携と担い手を生む→港南台タウンカフェの事例
- ・個人の活動ニーズをキャッチしインキュベートする→UCDN 並木ラボの事例
- ・区民活動支援センターや企業から、相談先として仲介される（カフェは無償対応）
- ・団体運営や活動に必要な地域資源・助成金情報を提供（区版センターブランチ）

（２）カフェ型中間支援機能に期待される要素→別紙

### （３）カフェ型中間支援機能の５つの課題

- ・事業性：中間支援機能部分は、積極的に取り組みたいが、事業性がないのが悩み
- ・信頼：地域のキーパーソン、ステークホルダーから「新参者」として受け入れられないことがある
- ・成果：何をやっているのか・成果が見えにくい
  - 活動の可視化、事業やプロセスの評価が重要
- ・支援性：相談をカフェの機能と考えるか。ボランティアスタッフは、いつも正しい情報を提供できるか。
- ・自由度の保証：コミュニティカフェへの期待の高まりの中で、その価値の基礎となる「ゆるやかな場」の自由度をいかに保証できるか

### （４）コミュニティカフェの意義や成果の可視化

○評価指標がなく意義や成果の可視化が難しい。参加人数、売上でない評価指標の必要を感じる。

- ・利用者に「来て良かった、何か得られた」と感じてもらえることが大切。
- ・相談者は「支援してもらった」意識がない。
- ・可視化させるのは「その場に集う人びとが、社会のために創り出した新たな価値」ではないか。

○可視化の手法

→カフェの認知、カフェに対する信頼、地域参加率などの数値化（一人一人の変化を慎重に調査）

→「他者（社会）のために行動することが自分にとって楽しいと思う」人がどれだけ増えたか調査（対象者の過去の経験・経験からの学び・成長などを聞き取り調査などで収集分析）

カフェ名称:

①理想→あなたのカフェにとって、各要素の重要度を1～4で記入ください(4が一番重要度が高い)

②現実→あなたのカフェが現在有していると思われる力量度を自己診断して1～4で記入ください

			初期	現実	理想
空間・場づくり	1	誰でも入りやすい場・歓迎する人が、日常的にあること			
	2	お客さん同士が、いつも話やすく、つながりやすい雰囲気になっている			
	3	ゆるやかな場づくり、誰ともつながらないことも受け入れられる			
スタッフの意識や力量	4	お客さんのニーズ（抱えている課題・期待）の見極め			
	5	お客さんやボランティアが持っているスキルや能力などを引き出す（エンパワメント）			
	6	聴くこと共感すること、一緒に困る・考える、学び知ろうとする姿勢			
	7	支援する・されるという関係性を固定しない（お互いさまの関係づくり）			
	8	コーディネート（人と人をつなぐ、異なる相談をつなぐ、他分野への働きかけ）			
	9	カフェスタッフ各自が持っているネットワーク・リソース・関心事の把握			
	10	スタッフ一人一人が持っている、情報、ネットワークを、全体で共有し活用する			
	11	中心スタッフが、地域(テーマ)への思い入れを持っている			
運営組織の力量	12	個人の困り事を、みんなの困り事や地域の課題として捉える			
	13	カフェスタッフを信頼して任せる、感謝する・評価する			
	14	地域課題を把握していること			
	15	地域課題を先に読んで解決する。半歩先の課題を見つけられるセンス			
	16	地域の動きが見える（情報が集まってくる）			
	17	まちや社会に必要な仕組み・機能を創出する意識			
	18	カフェが持っているテーマからさらに広がりをもとうとする意識			
	19	行政・他団体との連携と協働を志向している			
	20	活動蓄積による(地域や他組織からの)信頼			
	21	まちづくりや地域課題解決の担い手を見つけ育てる意識			

＜カフェ型中間支援機能事例検討会 参加者名簿（所属等参加当時のもの）＞

	お名前	所属(カフェ)
1	松本和子	コミュニティカフェ夢みん
2	望月啓代	大倉山おへそ
3	森祐美子	こまちカフェ
4	岡本湓子	さくら茶屋にししば
5	岩室晶子・中聡美	シェアリーカフェ
6	中村泰子・柴田暁子 斉藤陽子	スペースナナ
7	五味真紀	ハートフル・ポート
8	島津禮子・泉一弘	ふらっとステーション・ドリーム
9	内山郁子・吉田篤子	ふらっとステーション・とつか
10	武井晴子	コミュニティサロンほっこり
11	三輪律江	UDCN 並木ラボ・横浜市立大学国際総合科学部准教授
12	名和田是彦	法政大学法学部教授・まちづくりフォーラム港南
13	松村正治	恵泉女学院大学人間社会学部現代社会学科准教授・NORA はまどま
14	田所承己	帝京大学文学部専任講師
15	吉原明香・関尾潤	市民セクターよこはま
16	齋藤保	港南台タウンカフェ、YCCN 共同代表
17	鈴木智香子	大倉山ミエル、YCCN 世話人
18	米田佐知子	まちづくりフォーラム港南、YCCN 世話人
19	半浦淳・夏目千絵 谷川みちる	横浜市市民局市民活動支援課
20	田中理紗子	YCCN アルバイト・横浜市立大学学生



## 事業計画書

提案 事業名	カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及
<div data-bbox="220 790 263 985"> <div data-bbox="220 790 263 824">1</div>           趣旨・目的         </div>	<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各区では、区民活動支援センター・区社会福祉協議会・地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスなどの施設が、団体や住民の活動拠点となっている。</li> <li>・この10年ほどの間に「コミュニティカフェ」という新たなスタイルの地域拠点が市内に次々生まれている。飲食を伴わないカフェ的な場も含め、形態も交流型・テーマ型・事業型等、多種多様だ。</li> <li>・「目的を持たなくても利用できる」カフェは敷居を低く、多様な利用者に、居場所や情報、地域での役割（出番）も提供している。また、団体の運営支援やネットワークづくり、連携のコーディネート等、中間支援機能を果たす要素を内在している。</li> <li>・市内に早期に開設されたカフェでは、エリアマネジメント、ネットワークづくり、団体運営相談等、既に中間支援役割を果たし始めている。この数年は、横浜市まち普請事業を活用し地域づくりを意識して開設するカフェ等も増えて、そうした中間支援志向のカフェに、支援機能の強化ニーズが出てきている。</li> </ul> <p><b>【事業の目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年の本事業では、カフェが中間支援役割を果たす意義や支援機能充実のために必要な要素、持つべき力量等を整理し、カフェの現状や課題・ニーズを一定把握、改めてその意義の可視化の重要性を認識できた。一方で、コミュニティカフェが中間支援組織として認知されていない現状や、コーディネイトを円滑にするためには、コミュニティカフェが果たしている役割や意義の可視化が必要であることも見えてきている。</li> </ul> <p>2年度目は初年度の成果を基に、小地域での中間支援機能の強化にコミュニティカフェが一定の役割を果たすための体制づくり、ネットワークやコーディネイトの力量を高めるために必要なこと等を模索する。それらを通じて「市内のコミュニティカフェが中間支援組織として力をつけること」と「当ネットワークが個別カフェを支援する中間支援力の向上」の両方を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また併せて、中間支援機能を果たすコミュニティカフェと、区民活動支援センターを初めとする区域の中間支援組織や活動拠点との連携についても考え、各地域（中学校区程度の小地域等）での市民活動の支援環境のあり方も考えていきたい。</li> </ul>
<div data-bbox="220 1485 263 1653"> <div data-bbox="220 1485 263 1518">2</div>           事業内容         </div>	<p>（事業実施地域）</p> <p>横浜市域（小地域をベースとしたモデル事例4か所程度と、中間支援機能を志向する15程度のコミュニティカフェが運営されているエリア）</p> <p>（事業の対象者）</p> <p>横浜市内で運営されているコミュニティカフェと、当該カフェが立地する地域住民、地域活動団体等、まちづくりの多様な主体</p>

(事業内容) H27～H29 年の 3 か年で、下記の事業を行う。

**1. 事例検討会 (H27 年 5 回、16 団体)**

既に中間支援機能を果たすコミュニティカフェの事例から、成功要因やその機能を把握し、カフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき力量を整理する。

**2. カフェ伴走会議 (H27 年・H28 年、計 5 団体+5～6 団体、検討会議 2 回、15 団体程度)**

中間支援組織を志向するカフェ運営団体 (5 団体・2 年目新規 3 団体公募) に対し、既に中間支援機能を持ち得ている先行取組カフェ 5～6 団体の関係者が伴走支援を行う。個別カフェの支援機能強化・先行取組カフェの力量向上と同時に、伴走支援を通じて横浜コミュニティカフェネットワークの支援力向上も図る。  
また、小地域での中間支援機能強化を進めるために、カフェ単独でなく地域のステークホルダーと連携協力して体制構築する可能性を模索する。

**3. 公開フォーラム開催 (H27 年・H28 年、年 1 回、各回 60 名規模)**

「事例検討会」と「カフェ伴走会議」で把握された成果について報告共有の場をつくり、コミュニティカフェの中間支援機能に関する理解と、関心層を広げる。

**4. 訪問調査 (H27 年 6 か所、H28 年 6 か所)**

横浜市内のカフェがどのように中間支援役割を果たしているのか、地域での連携の可能性、課題やニーズ等を、訪問し把握する。2 年目は区民活動支援センター等も訪問、地域での中間支援機能の状況把握と連携可能性を探る。

**5. 地域フォーラム開催 (H29 年、市内 5 か所)**

「カフェ伴走会議」の支援対象カフェが、各地域で多様な主体と連携した地域フォーラム(自主勉強会)を開催し、具体的な中間支援の力量形成・支援基盤強化に取り組む。カフェ支援会議の支援者が、継続して助言をする。

**6. 報告書、啓発冊子の制作発行 (H27 年、H28 年、H29 年)**

事業成果 (コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義、中間支援機能や役割の整理、コミュニティカフェでの支援の実際、事例等) を年度ごとに記録し、中間報告を WEB 掲載。3 年目に報告書 (無料配布) と啓発冊子 (有料頒布) の 2 種類を発行する。



※この頁は、事業提案時に、横浜市市民活動支援センター自主事業実施要綱第1号様式にて継続希望「あり」とされた場合、又は前年度以前から提案を継続している団体のみ記入してください。

		個別カフェの支援力強化	当ネットワークの支援力強化
<div>3</div> 事業計画 (事業経過)	H27 年度	<div>2. カフェ伴走会議 (1年目)</div> 2 団体 (+伴走側 2 団体) <ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走先との調整</li> <li>・伴走会議</li> </ul> 計 7 回 (3 回+4 回)	●支援センター事業他団体との連携調整 <div>4. 訪問調査</div> (6 か所) <div>1. 先進事例研究</div> (5 回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例調整</li> <li>・研究会開催</li> </ul> <div>6. 報告書の素材作成</div> <div>3. 公開フォーラム</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画準備</li> <li>・広報</li> <li>・フォーラム開催</li> <li>・中間報告 WEB 掲載</li> </ul>
	H28 年度	<div>2. カフェ伴走会議 (2年目)</div> 5 団体 (公募新規 3 +継続 2) (+伴走側 3 団体) <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新規団体の公募選考</li> <li>② 伴走会議 計 13 回  (@3 回×新規 3 団体)  (@2 回×継続 2 団体)</li> <li>③ カフェ検討会  (15 団体程度・2 回)</li> </ol>	<div>4. 訪問調査</div> (6 か所) <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の選定・調整</li> <li>・訪問調査</li> </ul> <div>6. 報告書の素材作成</div> <div>3. 公開フォーラム</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画準備</li> <li>・広報</li> <li>・フォーラム開催</li> <li>・中間報告 WEB 掲載</li> </ul>
	H29 年度	<div>5. 地域フォーラム</div> (5 団体＝伴走会議伴走先) <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域での企画・調整</li> <li>・伴走者による助言</li> </ul> 計 5 回 (@1 回× 5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラム開催</li> </ul>	<div>6. 報告書・啓発冊子の発行</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿執筆・編集作業</li> <li>・印刷</li> </ul>
「報告書」の発行・送付、WEB 掲載 「啓発冊子」の発行			
<div>4</div> 横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	<div>1. 横浜市市民活動支援センター (市民セクターよこはま)</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>①カフェ伴走会議「検討会」へ中間支援組織として参加</li> <li>②アニマート取材等を通じた現場訪問、特に拠点に関わる情報の共有をお願いしたい。</li> <li>③各区区民活動支援センター関係者が市域に集まる会議等で、当ネットワークの取り組みを紹介し、区域におけるコミュニティカフェ的な団体の存在やその意義について意見交換等をお願いしたい。</li> </ol> <div>2. アクションポート横浜・ETIC</div> 市民レポーター事業や、学生インターンを受け入れ、公開フォーラム企画運営等で連携したい。  上記を通じ、公開フォーラムでの報告や、訪問調査の団体選定の素材とする。またこれからの地域づくりにコミュニティカフェが果たす役割や意義、地域連携について議論を行い、相互に連携して取り組みたい。		

5 具体的な事業内容、期待される効果及び予算等  
(既に本事業による取組を実施している場合、実施済みの年については事業結果及び決算を記入)

H27 年度	<p>(事業結果)</p> <p><b>1. 訪問調査 (6か所)</b> 自治会・町内会が行っているカフェ等を中心に、コミュニティカフェが果たしている中間支援的役割の状況を、課題も含めて訪問調査した。</p> <p><b>2. 事例検討会 (5回)</b> 事例から、カフェで行われている中間支援機能を把握し、コミュニティカフェが中間支援機能を持つ意義や役割、持つべき機能や力量などの視点を整理した。</p> <p><b>3. カフェ伴走会議 (2団体(+2団体)、計7回)</b> 中間支援組織を志向するカフェ運営団体に対し、既に中間支援的役割を持ち得ている先行取組カフェの関係者が支援者となり伴走支援を行った。</p> <p><b>4. 公開フォーラム開催 (1回、80名参加)</b> 1と2で把握された視点や現状について広く報告共有した。</p> <p><b>5. 報告書の素材整理 (視点と先進事例)</b> 成果をまとめ、中間報告を WEB に掲載。</p>	
	<p>(期待される効果) <b>視点の整理と共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェが中間支援を果たす意義や、必要となる要素、支援機能のプログラムや仕組みについて、今後の取組の視点が整理された。</li> <li>・具体的な個別カフェ2か所の現状把握とコミュニティカフェが果たす中間支援のあり方について理解が進み、先行取組カフェ2か所の力量形成がはかられた。</li> <li>・各種事業を通じて、当団体の中間支援の経験値が上がった。</li> </ul>	
	<p>(事業の決算見込額) <b>2,232 千円</b></p> <p>(横浜市補助金額) <b>2,000 千円</b></p>	
H28 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p><b>1. 訪問調査 (6か所)</b> 各地のカフェが持つ中間支援的役割の現状や課題、運営団体の意識確認も含めて訪問調査する。区民活動支援センターなどの地域版中間支援機能についてもヒアリングを行い連携の可能性を考える。</p> <p><b>2. カフェ伴走会議 (13回 (3(+3団体)×@3回、2(+3団体)×@2回)+2回)</b> 前年からの継続2団体に公募で新規3団体を加えて5団体を対象とし、先行取組カフェ3団体の関係者が伴走支援を行う。また支援の効果を高めるために伴走先カフェに他カフェ関係者や中間支援組織、学識者等を交えた検討会(2回)を行いそれぞれの中間支援力の底上げをする。</p> <p><b>3. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模)</b> 1と2で把握された現状を広く報告し、今後を考える場をつくる。</p> <p><b>4. 報告書の素材整理</b> 成果をまとめ、中間報告を WEB 掲載と関係者分印刷 100 部</p>	
	<p>(期待される効果) <b>現状とニーズ把握、支援ノウハウ・実績の蓄積</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地のコミュニティカフェの意識や現状、課題についての把握が進み、当ネットワークが果たす広域中間支援のあり方を考える素地となる。</li> <li>・カフェ伴走会議では潜在的な中間支援機能を当事者団体のみならず、地域の支援機関やステークホルダーなどと共有することで、意識向上啓発を図る。また3年目以降の地域レベル・区レベルでの中間支援機能の強化につなげていくきっかけとなる。</li> <li>・市内で中間支援に取り組むコミュニティカフェ実践者が、伴走者としてサポートすることで、相互支援の経験・実績が蓄積される</li> <li>・公開フォーラムを通して、コミュニティカフェが果たす中間支援機能についての理解を深めることで、身近な市民活動支援機能が強化されるとともに、行政やNPO 支援機関との役割・機能分担について考えるきっかけとなる。</li> <li>・当団体による個別支援の経験・実績が蓄積される。</li> </ul>	
	<p>(事業の総予算額) <b>2,300 千円</b></p> <p>(横浜市補助金額) <b>2,000 千円</b></p>	
H29 年度	<p>(具体的な事業内容)</p> <p><b>1. 報告書と啓発冊子の制作</b></p> <p>①報告書 (約20ページ300部) 区役所、区民活動支援センター、市内コミュニティカフェ等へ送付</p> <p>②啓発冊子 (約30ページ700部) コミュニティカフェによる中間支援役割と機能、中間支援組織の地域連携等について理解を広げるための「啓発冊子」を制作し、希望者や今後の啓発活動や相談対応で、有料頒布する。</p> <p><b>2. 地域フォーラム開催 (市内5か所)</b> カフェ伴走会議で伴奏支援を受けた団体が、各地域で多様なまちづくりの主体・住民を募りフォーラム (または自主勉強会) を開催し、地域課題の共有や具体的なネットワークづくりを実践し、コーディネイト能力向上させる。カフェ支援会議の支援者は、引き続き助言を行う。</p> <p><b>3. 公開フォーラム開催 (1回、60名規模)</b> 3か年の成果を広く報告し、カフェ型中間支援組織の展開を考える場をつくる。</p>	

		(期待される効果) <b>普及と展開</b> ・ 中間支援組織を自覚し実践する複数のカフェが市内に生まれる。 ・ カフェ型中間支援機能を啓発普及させるための実績とツールができる。	
		(事業の総予算額) 2,400 千円	(横浜市補助金額) 2,000 千円

(第4号様式)

## 事業収支予算書

【収入】

(単位:円)

項 目	金 額	説 明
横浜市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄付等)	240,000	会費寄付より充当
参加費・資料代等	60,000	公開フォーラム参加費 1000 円×60 名
合 計	2,300,000	

【支出】

項 目		金 額	説 明 (使途、積算根拠等)
訪問調査	調査費	18,000	3,000 円×6 団体
	交通費	24,000	2,000 円×6 団体×2 名
	人件費	75,000	2,500 円×30hrs
		30,000	1,000 円×30hrs
伴走会議 (新規団体)	団体公募費	10,000	
	支援団体受入れ謝金	90,000	10,000 円×3 回×3 団体
	会場費	45,000	5,000 円×3 回×3 団体
	人件費(主担当支援者)	300,000	2,500 円×40h×3 団体×1 名
	交通費(主担当支援者)	24,000	2,000 円×5 回×3 団体×1 名
	人件費(支援者)	180,000	2,500 円×12h×3 団体×2 名
	交通費(支援者)	12,000	2,000 円×3 回×3 団体×2 名
	事務局人件費	37,500	2,500 円×15hrs
伴走会議 (2 年目団体)		50,000	1,000 円×50hrs
	支援団体受入れ謝金(継続)	40,000	10,000 円×2 回×2 団体
	会場費(継続)	20,000	5,000 円×2 回×2 団体
	人件費(主担当支援者)	135,000	2,500 円×27h×2 団体×1 名
	交通費(主担当支援者)	8,000	2,000 円×2 回×2 団体×1 名
	人件費(支援者)	40,000	2,500 円×8h×2 団体×1 名
	交通費(支援者)	8,000	2,000 円×2 回×2 団体×1 名
	事務局人件費	25,000	1,000 円×25hrs
伴走会議 (検討会議)	講師謝礼金	20,000	20,000 円×1 名
	開催費	30,000	15,000 円×2 回
	交通費	72,000	2,000 円×18 名×2 回
	事務局人件費	75,000	2,500 円×30hrs
		10,000	1,000 円×10hrs
公開フォーラム	講師謝礼金	30,000	30,000 円×1 名
	報告者謝礼金	60,000	10,000 円×6 名
	会場費	55,000	お茶代含む
	広報印刷費	60,000	広報チラシ・配布資料
	事務局人件費	67,500	2,500 円×27hrs
		8,000	1,000 円×8hrs
報告書	原稿執筆謝金	240,000	30,000 円×8 名
	事務局人件費	185,000	2,500 円×74hrs
	印刷費	60,000	100 部関係者配布分
事務経費	打合せ会場費	72,000	6,000 円×12 ヶ月
	事務用品費	36,000	
	共同オフィス賃借料	48,000	4,000 円×12 ヶ月
合 計		2,300,000	